

月田公民館

勝山・月田・富原公民館

エリアで開設！オススメ講座

月田地区を擁する真庭市勝山エリアには3つの公民館があります。そのうち勝山公民館では、地域からの要望で講師となる地域人材の得意を活かした講座や中高生が参加しやすい講座を主催しています。今回は、3つの講座を紹介します。

■「サマースクール」 対象：小学生（低学年、高学年で日を分けて）

毎年、開催している夏休み講座です。前半は、ドリル等の宿題を、後半は体験的な学習として、低学年はリサイクル教室(講師:アスエコ)、高学年は英語(講師:ALT)を実施しました。サポーターの高校生有志も参加し、わからないところや難しいところを丁寧に優しく教えてもらえるため、小学生にとっても、楽しく学ぶ機会となりました。



■「DANCE WORKSHOP」 対象：小学生～大人（午前：小学生、午後：中学生以上）

地域おこし協力隊で真庭に移住された元ダンサーの方に講師をお願いし、実現したダンス講座です。対象は小学生から大人までですが、高校生の参加が多い講座です。ダンス未経験の方でも楽しく学ぶことができるよう、リズムののり方から丁寧に教えていただきました。今後も継続したい講座の一つと考えています。



■「フラワーアレンジメント講座」 対象：どなたでも

どなたでも参加いただける講座です。地域のフラワーショップに協力していただいている講座のために新鮮なお花を豊富に準備していただけることや、補助があるために参加者の材料費の負担が軽減される等、何かとお得な講座の一つです。できあがった作品は、持ち帰って、2週間程度、飾っていただくと長く楽しめる場所もオススメです。



公民館を地域のつながりづくりの拠点にしたい

月田公民館に勤める前には、真庭市内の小中学校で校務員として働いていました。当時は、子ども達や先生方、保護者の方々と話す機会が多く、それぞれの思いに触れることができました。また、学校の環境整備等も含め様々な仕事をさせていただきながら、**学校の仕組みや地域とのつながりの大切さ**について知ることができました。

この経験を活かしながら、これからも地域の声に耳を傾け、月田公民館として主催する講座あるいは行事等、月田地区の住民同士がつながり合うきっかけとなる取組を行い、**公民館が「地域のつながりづくりの拠点」となるよう**にしていきたいです。



月田公民館職員
山下 裕子 さん

今ある地域組織のつながりを活かした「学校を核とした地域づくり」 月田小学校を支える地域住民と地域づくり

真庭市月田地区には、月田小学校を支える様々な地域コミュニティがあります。

その一つである『月田奨学会』は、地域全体が会員となっている90年以上の歴史をもつ地域組織で、PTA組織のような**学校を支える組織**です。学校での授業補助・学習支援、環境整備、見守り活動等は、学校が募ったボランティアの方々だけでなく、公民館を始め、婦人会、シニアクラブ、各種団体(スポーツ少年団、綱引き、卓球)等の**地域組織が主体的に活動**しながら、**学校を通じてつながりを深めています**。

また、『月田コミュニティ協議会』は、奨学会同様、地域全体が会員となっていますが、こちらは主に**地域を支える組織**となっています。学校や公民館、奨学会や老人クラブ、婦人会はもちろん、商工会や消防団、スポーツ推進委員や愛育委員、栄養委員や青年部など、幅広い関係者が所属し、地区運動会や清掃活動、広報誌発行等、**地域住民が主体**となり、**子ども達の成長を支える**といった**長期的な視点に立った地域づくり**を展開されています。

このように、月田地区には地域づくりを自分事として活動する多くの地域組織が存在していますが、今年度、新たな動きもありました。学校付近のウォーキングをしていた地域住民が、小学

の広い斜面の草刈りをする2名のボランティアさんを目にしたことがきっかけです。その方は、月田地区にある各種団体(消防団後援会、奨学会OB、歩こう会等)に声を掛けられ、40名もの地域住民による草刈り作業が実施されました。2名の学校ボランティアさんの**積極的な動き**をきっかけに、その姿を見られた方の呼びかけが**地域全体の動きへと広がって**いく。これまでにあった地域組織が持続

可能な形でつながっていたからこそ実現した動きと言えます。

児童数の減少に伴って保護者の数も少なくなり、環境整備の活動一つとっても大変な状況となっている学校も少なくありません。地域から積極的な声があがり、地域全体で学校や子どもを支えると同時に地域がつながりを深める「学校を核とした地域づくり」の好事例となっています。

『月田コミュニティ便り』(年3回発行)

月田地域の行事だけでなく、地域で活動する団体等の活動や地域住民個人にスポットを当てた内容も多くあります。また、進学等で月田を離れた大学生、就職で月田に戻ってきた若者、退職を迎えられた人生の大先輩などの声も掲載されており、読み応えのある冊子となっています。



「親としての経験と実感を地域づくりに活かす」

自慢の人材紹介コーナー

かつて、わが子が月田小学校にお世話になっている際に、奨学会の会長を務め、**地域の組織同士のつながりや地域づくりの大切さを実感**しました。

今は、消防団後援会の会長をしていますが、月田小学校を始め、月田地区を盛り上げていきたい気持ちをもっています。夏には、月田小学校の斜面の草刈り作業を地域に呼びかけ、約40名に協力していただきました。**このまとまりやすさは、これまでのつながりを大切にできたからこそ**のことです。

月田小学校は、令和5年度に開校150周年を迎えます。これを機に、改めて、月田地域だからこそできる「つながりづくり・地域づくり」をしていきたいと思っています。



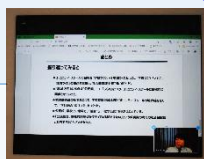
消防団後援会 会長
土井 政男 さん



社会を取り巻く状況の変化とともに、地域を取り巻く諸課題も多様化する中、公民館は時代に合った変容が求められています。新庄村においても、昭和48年に現在の新庄村公民館が建設されて以来、地域の社会教育の発信源として、盛んに活動が行われてきました。しかし、少子高齢化が進む近年は、村内の関係団体の減少とともに公民館の利用者数も減少傾向にあり、また、建物全体の老朽化も課題となっています。これらの課題を背景に「新庄村公民館のあり方検討委員会」が発足しました。10名の委員が委嘱され、7回の検討委員会を開催し、公民館の現状と課題、役割と今後の方向性等について慎重に協議がなされました。

むらづくり・人づくりの拠点化！「新庄村公民館あり方検討委員会」

第1回会議



- ・委嘱状交付
- ・会長、副会長選出
- ・講義「これからの公民館のあり方」

第1回会議では、「これからの公民館のあり方」と題し、岡山大学大学院の熊谷慎之輔氏より、公民館の実情や課題、求められている役割、学校との連携・協働に関する事例紹介等についてお話しいただいた。

第2回会議



- ・諮問
- ・公民館事業
(公民館・図書館の利用状況)

第2回会議では、3グループに分かれ、「公民館の現状と課題」「役割や方向性」について意見を出し合った。「集い・学び・つながる公民館」の実現に向けて、「交流スペースの確保」「図書館の充実」「土日開放」「小学校管理棟の有効活用」「住民へのアンケート実施」等、様々な視点からの具体的な意見をいただいた。

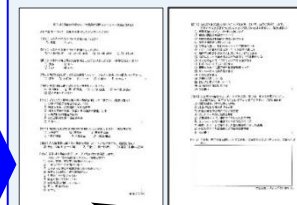
第3回会議



- ・他施設の代替利用の可能性を検討、小学校管理棟内を見学
- ・講義「特徴的な図書館」
- ・住民へのアンケート調査設問内容の検討

第3回会議では、「特徴的な図書館」と題し、村政アドバイザーで建築家の佐川旭氏より、13の図書館について御紹介いただき、明確なコンセプトをもつこと等のポイントについてお話しいただいた。

村民へのアンケート調査を実施！



検討委員会を受けて「新庄村公民館の今後のあり方検討に関するアンケート調査」が実施されました。

【問10】 どのような公民館だったら、もっと利用したいと思いませんか。

【問11】 公民館の活動に期待することは、どのようなことですか。

第4回会議

- ・先進地視察
西粟倉村「あわくら会館」
鏡野町「ペスタロッツ館」



第4回会議では、2町村の施設を見学した。どちらも図書館を有する社会教育施設であり、施設そのものに加え、図書館の利用等についても説明いただいた。

第5回会議

- ・先進視察の感想等
- ・住民へのアンケート調査結果
- ・公民館の適正配置や運営方法



第5回会議では、3グループに分かれて「公民館の適正配置や運営方法」について意見を出し合った。「学校、公民館、新庁舎のすることを3つに分けて整理」「Wi-Fi環境の整備」「温かみのある図書館」等の様々な視点での意見が出され、人員や運営、講座のもち方等について、改めて考える機会となった。

第6回会議

- ・答申案について

第6回会議では、これまでの会議での検討内容について振り返りを行った。答申案の作成に向け、3グループに分かれ、グループワークを行った。

第7回会議

- ・答申案について

第7回会議では、答申案の内容の確認し、意見を出し合いながら公民館のあり方の方向性について確認した。

新庄村公民館のあり方について
答申

「新庄村公民館あり方検討委員会」に参加して

図書室ボランティア 田中 由美子さん



図書室ボランティアとして、保育所の子ども達を対象に、読み聞かせを行っています。絵本の良さ、よりよい活用ができるよう工夫しながら活動していきたいです。

今回、この検討委員会に関わることとなり、改めて「新庄村にも図書館を」と思いを強くしました。これからの新庄村公民館に図書館の機能をもたせたり、公民館そのものの存在が、子どもにとっては寺子屋、大人にとっては集い場となってほしいと感じています。

住民に対するアンケートの声が、検討委員会だけで閉じることなく、少しでも反映された公民館・図書館となることを願っています。

歴史民俗資料館学芸員 大畑 ゆかりさん



令和2年度から地域おこし協力隊として新庄村に移住してきました。自然豊かな新庄村が大好きです。

今回、委員として公民館について考える機会をいただき、今のことだけでなく、わが子がいつか大きくなったら…という視点で考えました。

いろいろな立場の方とのワークショップ形式による意見交換や他市町村への施設視察によって、自分と異なる考え方に触れると同時に、新庄村の良さを見直したり新庄村ならではの事態に合った公民館のあり方について考える貴重な経験となりました。みんなの願いが実現するのが楽しみです。

「社会教育施設として、より多くの住民の声を実現する公民館」を目指して

令和3年10月より、新庄村教育委員会で勤務しています。それまでは異なる仕事をしていましたが、一時期、中学校で講師をしていた時期もあります。新庄村教育委員会に入り、改めて、教育や子どもに関わる仕事をさせていただくことになり、巡りあわせを感じています。

当初は、ちょうど「新庄村公民館あり方検討委員会」の答申が作成されていた時期で、自分自身が公民館担当となったこともあり、公民館のあり方や役割について考えたり、地域住民のアンケート調査の結果から村民に期待されていることを感じたりすることができ、その後の公民館業務の進め方につながっています。

来年度から、教育委員会が村役場へ移転することになります。公民館が、社会教育施設としてより多くの住民の願いを実現するためにできることは何かを考え、村ならではの柔軟性をもって工夫し、人が集う公民館を目指したいと思っています。



新庄村教育委員会
公民館担当者
主事 川端 佑始さん